

令和4年度 生徒・保護者アンケートの集計結果

【生 徒】					【保護者】				
取組の重点					質問項目				
質問項目					A	B	C	D	
					そう思う	まあまあ思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	
充実した学校生活	旭川一のあいさつを意識して教育活動に取り組めたか。	57	33	7	2				
	けじめのある言動を意識して教育活動に取り組めたか。	64	31	4	2				
	深い学び合いを意識して教育活動に取り組めたか。	55	38	6	1				
主体的な学習	授業参加の三原則「気構え・身構え・物構え」を意識して授業に臨みましたか。	49	42	8	1				
	課題や見通しをもち、主体的に授業や学習に取り組めましたか。	51	41	7	1				
	授業で、「深い学び合い」を実感できましたか。	49	41	9	1				
	授業で、学んだことを整理する時間が保証されていますか。	38	49	11	2				
	毎日の家庭学習（学校外での学習を含む）に取り組むことができましたか。	30	39	23	8				
ICT	各教科の授業や、校内の取組の中で自分がタブレットなどのICT機器を使う機会はありますか。	56	36	7	2				
	道徳の授業では、他の人の考え方や感じ方を理解しながら、向上心や思いやり、社会のルールなどについて深く考えることができましたか。	65	29	5	2				
個と集団	学校や学年の行事に関わる活動を通して、自分が成長したり、集団の力が高まったりする実感がありますか。	67	27	4	2				
	「いじめをしない・させない・許さない」学級や学校を意識していますか。	85	11	2	2				
いじめ	悩んだり、困ったりすることがあったとき、まわりの人に相談できました（できます）か。	53	30	11	6				
	進路や職業に関する学習などを通して、自分の将来について考えることができましたか。	55	26	11	5				
進路	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	77	18	3	2				
	スマートフォンやインターネットを使用する際に、学校や家庭で指導されていることを理解し、正しく使用していますか。	68	25	5	2				
家庭	学校での生活について、家庭で話をしていますか。	53	29	13	5				
	（加入者のみ）部活動で身につけた礼儀や粘り強く努力する姿勢などを日常の生活に生かすことができましたか。	68	23	6	4				

☆回答AとB（そう思う、まあまあ思う）の回答率が、生徒、保護者ともにおおむね8割を超える値が多く、生徒の日常のがんばりと家庭での働きかけが高い水準で安定しているようです。具体的な意見に耳を傾けて見直しを図りながら、学校の諸活動を推進してまいります。

★回答CとD（あまり思わない、全く思わない）の回答率が主に約2割に達するものに着目し、これまで行ってきた取組をさらに見直していきます。

ここ数年、全体の傾向があまり変化していないということから、継続的に取り組むべき本校の課題と捉えています。一層の工夫と努力を続けてまいります。

着目する事項	回答の状況	見解と方策
家庭学習の実践と 学習に苦手意識をもつ生徒への学習指導	毎日の家庭学習に取り組めていない生徒が約3割	日々の家庭学習に取り組めていないとの回答が昨年と同じような割合を占めています。年度始ガイダンスでの家庭学習や副教材の活用の仕方の具体的な指導、ICT機器を有効に活用した課題の取組を進めます。授業では学習したことの振り返りを積極的に行い、家庭学習でのICT教材の活用も各教科で進めていきます。補完的な学習もテスト前学習会を中心に充実させていきます。ご家庭でも子どもの生活リズムの構築や各種メディア（SNS、ゲーム、TV等）のメリハリをつけた利用、規則正しい家庭学習の取組についての働きかけをお願いします。
	家庭学習に取り組めていないと感じる保護者が約3割	
教育相談の姿勢と体制	困ったことを相談しにくい生徒が約1.5割	困ったことを相談しにくいと感じている生徒が昨年と同じ水準であり、家庭でもそのことを話せずにいるようです。学校では引き続き、温かな人間関係を構築する働きかけや教科に関する相談も含めて担当の教員に相談しやすい雰囲気づくりを進めています。日常的な生徒との関わりと見守りを継続し、困り感を抱えた生徒にいち早く気づき、寄り添う努力を続けていきます。学校に困り事を伝えにくいという回答が2割を超えております。担任等からもこれまで通り積極的に報告や相談をさせていただきま
	困ったことを保護者に相談しない家庭が約2割	
	学校に伝えにくいと感じる保護者が約2.5割	
ICTの活用	ICT教育の話題がありません家庭が約7.5割	本校の授業や諸活動の中で、ICT機器は全道的に教育誌で紹介されるほど積極的な活用が図られています。しかし、ICTありきでなく必要な部分で効果的に活用されているところです。子ども達にこれからの社会で生きていくために必要な資質・能力、デジタルシチズンシップを育んでいます。今後ネットを通じた教材の活用も進んでくると思われます。学校とご家庭の意識が大きく乖離しないよう、今子ども達や社会に求められているICT活用の話題を各家庭に提供できればと考えております。正しい各種メディアの利用や機器の取扱に関する指導には各家庭の理解と協力が不可欠です。子ども達の安心安全、かつ便利なツールの活用のために、協力を願います。
保護者への情報提供	家で学校のことをあまり話さない生徒が約2割	コロナ禍において活動が制限されていることや保護者の参観等も制限していることで、子どもの様子が見えないとの声が聴かれます。感染状況を注視しつつ、子ども達の姿をお見せできるように活動を考えていきます。また引き続き、学校からの通信などで幅広く情報を提供するとともに、生徒一人ひとりのニーズに応える具体的な情報共有も続けていきますので、定期的に行われる教育相談等でも遠慮無くお声がけください。
	学校の様子が把握しにくい保護者が約2割	
コロナ禍において	・各行事の精査や活動人数の制限 ・活動場所の徹底した換気の実施 ・生活のマスク着用徹底・手洗いの奨励 ・部活動中のごまめなマスクの着用 他	本校では引き続き感染状況の変化に合わせて、子どもの教育を受ける権利を保障しつつ、感染リスクを可能な限り低減した学習活動や形態、指導方法の工夫を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ります。生徒の学校生活の充実と安心・安全の両立を図るため、これまでの取組の見直しを続けてまいります。
校則の見直し	昨年、報道等で学校の人権侵害と捉えられるような校則、いわゆる「ブラック校則」が話題に上がります。本校にはそのような校則はないものと考えておりますが、学校評価等の自由記述の中に、校則の細かい部分の見直しを求める記述が目立つようになってきました。本校ではそうした状況を受け、今一度校則の見直しを図ってまいります。生徒指導部を中心として、教職員、生徒会、学年、学級が一体となって、議論と取組を重ね、生徒が自分たちの約束事として行動できるようにしたいと考えております。校則とは本来、子どもたちが社会に出たときに不利益を被らないようにするためにあります。現在の状況や身のまわりの地域社会からのとらえられ方など多面から考えていきたいと思	

◎他にも自由記述の回答で、具体的な懸念事項など多くの意見をいただいております。全てに目を通し、それぞれ対応する部署等で検討し、それを踏まえて次年度の計画策定に活かしてまいります。